

「福田村事件」を知っていますか？ その7

流山における関東大震災の被害と虐殺事件に触れておきたいとおもいます

『流山市史 別巻・利根運河史料集』には、家屋の倒壊などは少なく、運河の堤防の亀裂、崩壊、陥落により、新川、田中、福田村などが協力し合って、5千数百人が応急工事にあたったことなどが記されています。

流山における虐殺事件は、大正12年9月4日の東京日日新聞・房総版に「斬った上河中へ投ず 流山町の事件」という見出しで、報じられています。

地震当時小学校4年生だったSさん（現故人）からこの事件の詳しい目撃証言を得ることができました。

地震から数日後、旧道をはさんで万上みりと向かい合っていたSさんの家の前に、一人の朝鮮人が連れてこられ、太ももを斬られ籠に乗せられ、江戸川に放りこまれるまでの一部始終を、まるで昨日の出来事のように語ってくれました。

「なぜこんなに詳しく覚えているかという、とても怖かったからです」とSさん。10歳の少年にとっては許容限度を超えた体験だったことが容易に想像できます。また画家笹岡了一の弟子でもあったSさんは、当時の見たままを絵に残しています。

その絵のなかに、腕組みをして、じっと見ているだけの警察官らしい人物が描かれており、「殺ってもいいんだ」という当時の異常な空気を如実に物語っています。研究誌に発表後のある日、オープンしたばかりの高麗博物館初代館長がSさんの絵を貸してほしいと訪ねてこられました。ついでに犠牲者の供養を望まれたので、私と二人で、江戸川にお酒をそそぎ、花をそなえ、冥福を祈りました。

辻野弥生（つづく）

攻撃型空母へ

2015年9月の本ニュースに空母「かが」の進水と「いずも」の記事を掲載した。この計画時には政府は空母ではないと言い張っていた。ところが今回の予算委員会で護衛艦「いずも」を攻撃型空母への改修を検討していることが明らかになった。これまで「大規模災害時に多くのヘリなどを輸送するのだ」と説明してごまかしてきたが、いよいよ本音を出し、F35戦闘機を搭載する空母にしようとしているのだ。



4月から道徳教科始まる

今春から小学校で「特別の教科 道徳」が開始され、中学校では19年度から実施される。しかし多くの反対や疑問の中での実施であり、その指導や評価に現場の教師は苦慮している。そもそも道徳を学校教育の中に位置づけて強制していいのか？ その評価は……など疑問だらけで強行されている。森友学園問題を巡って廃止されたはずの教育勅語の復活まで取り沙汰される。参考に2つの資料を掲載します。

(1)教科書 まもなく文科省の教科書の検定結果が発表される。その中学校の道徳教科書を驚くような会社が申請をしているのではないかと伝えられる。（文科省は教科書の申請は非公開だと教えない。）

それは「日本教科書株式会社」なる会社だ。〈道徳専門の教科書会社〉を名乗り〈よい教材〉〈よい授業〉〈よりよい生き方〉などと「編集方針」を掲げるが、この会社は神保町駅からほど近い晋遊舎の同じ建物で多くの役員は共通だ。しかもその晋遊舎というのは『嫌韓流』シリーズなどのヘイト本や日教組、朝日新聞などを叩く本を出し、児童レイプのマンガを出版していた出版社だ。この住所は八木秀次氏らの教育再生機構を名乗る右翼的な教科書会社と同じ。

(2)教育勅語とは

森友学園で幼児に教育勅語を教えていると驚かせたが、その後政府自民党から擁護する発言が相次いだ。「いいことが書いてある」と言う。しかし

<ある投書>

殺すな」「盗むな」「うそをつくな」「淫行するな」の四つは、仏数の五戒と旧約聖書の十戒に共通する徳目であり、万古不易の人の道の基本と言っていい。近頃、「教育勅語」には時代を超え、世界に適用する道徳があると持ち上げる人たちがいるがこの四つが含まれていないことをご存じだろうか。勅語の核心は、すべては君のために命をなげうつ忠誠心を持った人になることだ。そこに「殺すな」や「盗むな」は入り込む余地はなかったのだ。

もし人命尊重や略奪禁止を掲げていたら、侵略戦争や日本兵の残虐行為はなかつたらう。

（東京の元倫理の教師Hさん 朝日新聞への投書）

おおたかの森駅宣伝・署名

3月9日(金) 15:30~16:30

暖かくなり始めました。がんばりましょう。